

2026年度(前期)

作業療法学科 3 学年
教育計画

関東リハビリテーション専門学校

2026年度 教育計画（作業療法学科）

学 年 : 3 科 目 名 : OT研究法 I

担当講師名 : 板倉 麻紀

単 位 : 2 単位 教育時間 : 30 時間

教科書 : 作業療法研究法（医歯薬出版）・医療統計解析 参考書 : なし
(出版社) : 使いこなし実践ガイド（羊土社） (出版社)

教育目標 【到達目標】 : 作業療法研究で用いられる各種統計解析の手法を、テーマに応じて

選択できるようになる。

【講義概要】

ヒトを直接の対象とした研究におけるパラメトリック・ノンパラメトリックの各解析手法を学習する。

本講義では卒前教育として量的研究のみを扱う。

回数	項 目	内 容
1	研究の準備	研究疑問から発表までの研究課程を学ぶ。
2	研究の準備	仮説検証の基礎や手順について学ぶ。
3	研究の準備	臨床研究でよく用いられる尺度や母集団について学ぶ。
4	研究と倫理	ヘルシンキ宣言の成り立ちと内容を学び、研究倫理の重要性を理解する。
5	解析手法	量的研究の枠組みを学び、エビデンスレベル・信頼性・妥当性を理解する。
6	解析手法	調査票や質問紙の作成方法を学ぶ。
7	演習	自身のPCにRをインストールする。
8	演習	R言語の基礎と基本操作に慣れる。
9	解析手法各論	2群間・3群間の差の検定の手法を学ぶ。
10	解析手法各論	相関分析・因子分析・主成分分析の原理と解釈について学ぶ。
11	解析手法各論	χ^2 乗検定の手法を学ぶ。
12	解析手法各論	パラメトリック/ノンパラメトリックとサンプルサイズについて学ぶ。
13	研究のテーマと解析手法	作業療法の臨床研究の実例をもとに、統計解析および解析ツールの 選び方を学習する。
14	研究のテーマと解析手法	
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】 windows10以降（推奨）、macOS10.14+以降（自己責任）のパソコンを用意すること（タブレット・スマートフォンでは使用できないパソコン専用ソフトを用いる）。

2026年度 教育計画（作業療法学科）

学 年 : 3 科 目 名 : OT研究法Ⅱ

担当講師名 : 板倉 麻紀

単 位 : 2 単位 教育時間 : 60 時間

教科書 : 作業療法研究法（医歯薬出版）・医療統計解析 参考書 :
(出版社) : 使いこなし実践ガイド（羊土社） (出版社) :

教育目標 【到達目標】 : 研究計画書と倫理審査申請書を作成できるようになることを目指す。

【講義概要】

研究のための情報収集の方法は日々変化し続けている。今年度は、オンラインデータベースを中心とした

文献検索を行い、研究計画書と倫理審査申請書を作成する。

回数	項 目	内 容
1	導入	研究全体の流れを学ぶ。
2	課題についての詳細	研究計画書と倫理審査申請書の記載方法について学ぶ。
3	文献検索	各種オンラインデータベースの利用方法を学習する。
4	文献検索	
5	文献研究	オンラインデータベースを使用して、自身の研究テーマに関する先行研究（全文または要旨）を入手する。 少なくとも1本の英文を含む5本の先行研究をレビューし、Excel形式でグーグルドライブにアップロードする。
6	文献研究	
7	文献研究	
8	文献研究	
9	文献研究まとめ	アップロードされた文献レビューの閲覧会を行う。
10	研究疑問と倫理	自身の研究疑問についてプレゼンテーション資料を作成する。
11	研究疑問と倫理	倫理面・解析面の両方の視点から実現性を検討する。
12	研究疑問から研究テーマへ	研究疑問のプレゼンテーションを通じて 臨床倫理・研究倫理を確認し、実現可能なテーマへと発展させる。
13	研究疑問から研究テーマへ	
14	図書館の利用	居住地の公立図書館や国立国会図書館の機能について調べる。
15	図書館の利用	自身の研究テーマに関する先行文献を、実際に図書館のサービスを使用して入手する。各図書館の開館日時に合わせて行うが、 感染症対策のため内容を変更する場合がある。 詳細については授業内で説明する。
16	図書館の利用	
17	図書館の利用	
18	図書館の利用	
19	研究計画書と倫理申請書	ヒトを直接の対象とした作業療法研究についての研究計画書と 倫理審査申請書を作成する。
20	研究計画書と倫理申請書	

2 1	研究計画書と倫理申請書	書式や作成手順などは、授業内で別途説明する。
2 2	研究計画書と倫理申請書	適宜、担当教員の指導を受けながら作成を進めること。
2 3	研究計画書と倫理申請書	
2 4	研究計画書と倫理申請書	
2 5	研究計画書と倫理申請書	
2 6	研究計画書と倫理申請書	
2 7	研究計画書と倫理申請書	
2 8	研究計画書と倫理申請書	
2 9	まとめ	総合確認
3 0	まとめ	総合確認
【成績評価方法】 提出物の内容により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。		
【授業の方法・形式と教員紹介】 文献レビュー・研究計画書・倫理審査申請書の作成を行うので、自身が随時使用できるパソコン（付随するアプリケーションを含む）を用意すること。		

2026年度 教育計画（作業療法学科）

学 年 : 3 科 目 名 : 地域包括ケア特論

担当講師名 : 花宮 豊

単 位 : 2 単位 教育時間 : 30 時間

教科書 : 地域包括ケアにおけるPT・OTの役割（文光堂） 参考書 :
(出版社) (出版社)

教育目標 【到達目標】 : 地域包括ケアシステムの概要を理解する。

【講義概要】 地域包括ケアシステムの課題解決を試みる。

地域包括ケアシステムにおける作業療法士の役割を検討する。

(グループワーク中心)

回数	項 目	内 容
1	オリエンテーション	授業概説、「地域包括ケアシステム」とは？
2	地域包括ケアシステム	地域包支援センターの役割
3	〃	地域ケア会議
4	〃	介護予防
5	地域包括ケアシステム課題検討	演習（地域包括ケアシステムの課題調査）
6	〃	〃
7	〃	グループワーク（課題発表）
8	〃	〃（課題再検討）
9	〃	演習（課題解決の検討）
10	〃	〃
11	〃	グループワーク（課題解決発表）
12	〃	〃（解決策修正）
13	〃	グループワーク（作業療法士の役割の検討）
14	〃	〃
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】

講義、グループワークなど

2026年度 教育計画（作業療法学科）

学 年 : 3 科 目 名 : OT評価学(OT総合Ⅰ)

担当講師名 : OT教員(笹野)

単 位 : 3 単位 教育時間 : 45 時間

教科書
(出版社) : なし参考書
(出版社) : なし

教育目標 【到達目標】 : 領域・疾患ごとの作業療法評価の目的と手順について、演習を含めた総合的学習を行い習熟度を高める。

【講義概要】

領域ごとの疾患別症例検討。評価計画、問題点抽出、目標設定、治療計画についてグループ学習を含めた課題演習。

回数	項 目	内 容
1	身体障害領域	パーキンソン病のリハビリテーション
2	身体障害領域	パーキンソン病のリハビリテーション
3	身体障害領域	リウマチのリハビリテーション
4	身体障害領域	リウマチのリハビリテーション
5	身体障害領域	身体機能・構造のまとめ
6	身体障害領域	身体機能・構造のまとめ
7	精神障害領域	統合失調症のリハビリテーション
8	精神障害領域	統合失調症のリハビリテーション
9	身体障害領域	末梢神経障害のリハビリテーション
10	身体障害領域	末梢神経障害のリハビリテーション
11	身体障害領域	脳血管障害のリハビリテーション
12	身体障害領域	脳血管障害のリハビリテーション
13	身体障害領域	身体障害評価法
14	身体障害領域	身体障害評価法
15	身体障害領域	身体障害評価法
16	身体障害領域	身体障害評価法
17	身体障害領域	総合評価
18	身体障害領域	総合評価
19	精神障害領域	総合評価
20	精神障害領域	総合評価

2 1	精神障害領域	気分障害のリハビリテーション
2 2	精神障害領域	気分障害のリハビリテーション
2 3	まとめ	総合確認
【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。		
【授業の方法・形式と教員紹介】		

2026年度 教育計画（作業療法学科）

学 年 : 3 科 目 名 : OT治療学13(義肢装具学)

担当講師名 : 板倉 麻紀

単 位 : 2 単位 教育時間 : 45 時間

教科書 : PTOTビジュアルテキスト 作業療法 義肢・装具学(羊土社) 参考書 : (出版社) :

教育目標 【到達目標】 : 義肢装具の基礎を学び、種類・適応疾患・正しい使用方法を理解する。

【講義概要】 義手と上肢装具に関してはチェックアウトの手段も習得する。

スプリント実習では最も基本的なスプリントの製作実習を行い、製作の一連の流れや対象者への安全確認も理解する。

回数	項 目	内 容
1	切断概論・義手の種類	切断原因・断端長による呼称・義手の分類のしかたについて学ぶ。
2	義手	上腕義手の構造・パーツ・機能的特徴と使用方法を学ぶ。
3	義手	前腕義手の構造・パーツ・機能的特徴と使用方法を学ぶ。
4	義手	筋電義手の構造・パーツ・機能的特徴と使用方法を学ぶ。
5	義手のチェックアウト	義手がユーザに適しているかチェックする方法を学ぶ。
6	義手のチェックアウト	義手がユーザに適しているかチェックする方法を学ぶ。
7	義手とADL	義手を使用したADL・IADLの様子を学ぶ。
8	義足	義足の構造・パーツ・機能的特徴と使用方法を学ぶ。
9	下肢装具	疾患別・障害別に、下肢装具の用途や装着時間や着脱方法の
10	下肢装具	指導法などを学ぶ。
11	上肢装具	疾患別・障害別に、上肢装具の用途や装着時間や着脱方法の
12	上肢装具	指導法などを学ぶ。
13	体幹装具	各種体幹装具の特徴を学ぶ。
14	各種歩行補助具の使用法	杖・車椅子・歩行器の構造と特徴を学ぶ。
15	各種歩行補助具の使用法	歩行補助具のサイズなどの調整方法を学び、
16	各種歩行補助具の使用法	校内において使用体験を行う。
17	スプリント	主に手関節・手指に用いるスプリントについて学ぶ。
18	スプリント	主に手関節・手指に用いるスプリントについて学ぶ。
19	スプリント製作実習	スプリントの分類・トレース法と直接法などの基本的な技法を学ぶ。
20	スプリント製作実習	トレース法を用いて短対立装具を、

2 1	スプリント製作実習	直接法を用いて手関節用および
2 2	スプリント製作実習	手指用スプリントを製作する。
2 3	まとめ	総合確認
【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。		
【授業の方法・形式と教員紹介】 第14回までは講義中心で、合間に教材の義肢装具に触れてもらう。 第15回以降は実技中心だが、感染症などの状況によって内容を変更することがある。		

2026年度 教育計画（作業療法学科）

学 年 : 3 科 目 名 : 地域OT学(職業関連活動)

担当講師名 : 花宮 豊

単 位 : 2 単位 教育時間 : 45 時間

教科書 : 作業療法学全書第12巻「職業関連活動」等
(出版社)参考書 :
(出版社)

教育目標 【到達目標】 : 精神障害リハビリテーションにおける「職業関連活動」の概要を理解する

就労支援における作業療法士の役割を理解する

【講義概要】

就労継続支援（就労移行支援）の見学・体験を通じ、実際の様子を学ぶ

「ジョブコーチ」について学ぶ

職業評価体験を試みる

回数	項 目	内 容
1	オリエンテーション	授業概説
2	「職業関連活動」の概要	「職業関連活動」概説（就労支援制度、技術）
3	職業関連活動における作業療法	職業関連活動における作業療法の役割、評価
4	障害別就労支援の実際	統合失調症の就労支援
5	就労支援の実際	見学オリエンテーション
6	ジョブコーチ	ジョブコーチ①
7	〃	〃 ②
8	〃 「	〃 ③
9	就労支援の実際	就労支援施設の見学・体験
10	〃	〃
11	〃	見学フィードバック
12	〃	〃
13	〃	発表（レポート提出）
14	〃	〃
15	職業評価体験	職業評価体験準備
16	〃	〃
17	〃	職業評価体験
18	〃	〃
19	〃	評価体験フィードバック
20	〃	〃

2 1	まとめ	総合確認
2 2	〃	〃
2 3	〃	〃
【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。		
【授業の方法・形式と教員紹介】 講義・グループワーク・施設見学など		

2026年度 教育計画（作業療法学科）

学 年 : 3 科 目 名 : 臨床実習(臨床実習Ⅱ)

担当講師名 : O T 教員(板倉)

単 位 : 2 単位 教育時間 : 60 時間

教科書
(出版社) : なし参考書
(出版社) :

教育目標 【到達目標】 : 総合臨床実習と関連の強い科目である。実習前評価(OSCE)・臨地実習・

実習後評価(口述発表)を通じて、作業療法治療の具体的な流れを学び、作業療法の臨床的パラダイムについての理解を高める。

【講義概要】

前半は、主にOSCE(客観的臨床能力試験)とその演習・実技から成る。

後半は、総合臨床実習の事例報告書の発表を通じて、総合臨床実習の評価とフィードバックを行う。

回数	項 目	内 容
1	総合臨床実習の全般説明	総合臨床実習の内容・到達目標などを学び、目的を理解する。
2	OSCEの説明	実習前評価(客観的臨床能力試験)の実施要項についての説明を行う。
3	実技演習	各種評価についての演習と実技
4	実技演習	各種評価についての演習と実技
5	実技演習	各種評価についての演習と実技
6	実技演習	各種評価についての演習と実技
7	実技演習	各種評価についての演習と実技
8	実技演習	各種評価についての演習と実技
9	実技演習	各種評価についての演習と実技
10	実技演習	各種評価についての演習と実技
11	実技演習	各種評価についての演習と実技
12	実技演習	各種評価についての演習と実技
13	実技演習	各種評価についての演習と実技
14	実技演習	各種評価についての演習と実技
15	実習前評価	OSCE
16	実習前評価	OSCE
17	実習前評価	OSCEの個別フィードバックと評価実技
18	実習前評価	OSCEの個別フィードバックと評価実技
19	実習前評価	OSCEの個別フィードバックと評価実技
20	実習前評価	OSCEの個別フィードバックと評価実技

21	実習オリエンテーション	オリエンテーション・資料配布
22	実習オリエンテーション	オリエンテーション・資料配布
23	実習後評価	総合臨床実習（第1期）の内容についての口述発表
24	実習後評価	総合臨床実習（第1期）の内容についての口述発表
25	実習後評価	総合臨床実習（第1期）の内容についてのフィードバック
26	実習後評価	総合臨床実習（第1期）の内容についてのフィードバック
27	実習後評価	総合臨床実習（第2期）の内容についての口述発表
28	実習後評価	総合臨床実習（第2期）の内容についての口述発表
29	実習後評価	総合臨床実習（第2期）の内容についてのフィードバック
30	実習後評価	総合臨床実習（第2期）の内容についてのフィードバック
【成績評価方法】 OSCEの成績と口述発表の内容により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。原則として欠席は認めない。		
【授業の方法・形式と教員紹介】 主に演習・OSCE・口述発表から成る。持ち物や服装の指定については担任から事前連絡がある。 この授業では、欠席・遅刻・早退は原則として認めない。必要な時は必ず事前に担任に相談すること。		